

令和元年5月22日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11657

研究課題名(和文)ひとり親家族用支援ニーズアセスメントツールの開発と信頼性・妥当性の検討

研究課題名(英文) Development of a Support Need Assessment Tool for Single-parent Families (SNATS) and Evaluation of its Reliability and Validity

研究代表者

松木 優子(平谷優子)(MATSUKI (HIRATANI), YUKO)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：60552750

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：ひとり親家族用支援ニーズアセスメントツールを開発し、その有効性を検証することを目的とした。ひとり親家族の家族機能研究と文献検討の結果から項目精選を行い、尺度を作成した。これは、21項目から成る自記式質問紙である。1保育園でひとり親家族を対象に質問紙調査を実施し、尺度を修正した後、保育所に通う子どもをもつひとり親家族を対象に信頼性と妥当性を確認するためのウェブ調査を実施した。親に対して調査を実施した結果、既存の家族機能尺度との相関係数は-0.36であった。Cronbachの係数は0.93であった。2週間程度の間隔をあげた相関係数は0.79であった。本尺度は信頼性と妥当性を具備した尺度と言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究の知見から、ひとり親家族は家族機能の特徴がふたり親家族とは異なることが明らかにされている。しかし、ひとり親家族の家族機能を的確にアセスメントするための家族機能尺度は存在しない。これまでは、配偶者がいないにもかかわらず、配偶者や結婚生活に関する項目が含まれる、ふたり親家族を基盤に作成した家族機能尺度をひとり親家族にも使用していた。本尺度はひとり親家族を基盤に作成しているため、ひとり親家族に適している。また、ひとり親家族の家族機能の充足度と看護師による家族支援の希望(支援ニーズ)について確認できるため、家族の希望とエビデンスに基づいた家族支援の実施や研究に寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to develop a Support Need Assessment Tool for Single-parent Families (SNATS) and to evaluate its effectiveness. Items were selected through family functioning studies and literature reviews about a single-parent family, and the SNATS was constructed. It is structured as a self-administered questionnaire composed of 21 items. For the preparation, a questionnaire survey was conducted for single-parent families in one nursery school. After we revised this SNATS, internet survey was conducted to evaluate its reliability and validity. The participants were single-parent families with their children enrolled in nurseries. When the SNATS was administered to the parents, Spearman's correlation coefficient between the SNATS and family functioning scale by Feetham was -0.36. Cronbach's alpha coefficient was 0.93. Spearman's correlation coefficient was 0.79 at about 2-week interval. In conclusion, it was indicated that the SNATS is a reliable and valid instrument.

研究分野：医歯薬学

キーワード：家族看護 家族機能 尺度開発 ひとり親家族

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、日本では、離婚によるひとり親家族が増加しており、看護職は病院だけではなく多様な場で子育てをしているひとり親家族を支援する機会が増加している。家族支援の目的は家族機能の維持・向上であるため(法橋, 堀口, 樋上, 2010), 看護職は、ひとり親家族の家族機能レベルをアセスメントし、家族機能の維持・向上を目的に、家族の価値観に沿って家族支援を実践する必要がある。

日本の子育て期のひとり親家族の家族機能に焦点を当てた家族看護学研究の研究成果から、ひとり親家族はふたり親家族と比較し、家族機能が低下することや(Hiratani, Hohashi, 2010), ひとり親に家族役割が集中する(平谷, 法橋, 2009)など家族機能の特徴がふたり親家族とは異なることが明らかにされている。しかし、ひとり親家族の家族機能を的確にアセスメントするための家族機能尺度は見当たらない。

### 2. 研究の目的

本研究では、看護職(看護師・保健師・助産師)がひとり親家族の家族機能をアセスメントする際に活用可能な「ひとり親家族用支援ニーズアセスメントツール(Support Need Assessment Tool for Single-parent Families: SNATS)」を開発し、その有効性(信頼性・妥当性)を検証することを目的とした。

### 3. 研究の方法

尺度開発のための事前準備として、ひとり親家族に関する文献、ひとり親家族の家族機能に関する文献、家族の価値観に沿った家族支援に関する文献を集めた。その際、(1)入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援については知見がないことが明らかとなったため、協力の得られた4病院に入院中の病児のいる10家族(ひとり親家族を含む)を対象に1時間程度の半構面面接調査を実施し、家族の価値観に沿った家族支援とは何か明らかにした。また、(2)ひとり親家族の文献検討を実施した。その後、(3)ひとり親家族に関する文献検討の結果と子育て期のひとり親家族の家族機能研究の成果をアイテムプールとし、項目精選を行い、尺度を作成した。これは21項目で構成される自記式質問紙であり、20項目は回答選択肢型質問、21項目には、各20項目に対する看護職による家族支援や相談の希望を確認する項目を設けた。回答選択肢型の各項目には家族機能の充足度を1~5のリッカートスケールで回答する。得点が高いほど家族機能の充足度が高いことを意味する。1保育所でひとり親家族を対象に質問紙調査を実施し、質問内容を小修正したうえで、全国の認可保育所・無認可保育園・認定こども園に通う子どもをもつひとり親家族を対象にウェブ調査を実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援

入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援として、【病棟の人的・物理的環境を整える支援】【家族への情報提供】【家族を気遣う支援】【家族の精神状態を考慮して関わる支援】【家族の相談相手になる支援】の5カテゴリー、合計14サブカテゴリーが明らかになった。すなわち、家族は、家族にとって不自由な病棟環境にいるため、病棟の人的・物理的環境を整える支援を期待していた。医学的知識があり、入院に関連した様々な情報を把握している看護師からの情報提供を期待していた。看護師の仕事に向き合う姿勢や態度、看護師の雰囲気や敏感に感じとっており、真に家族を気遣う支援を期待していた。家族員の心情や言葉では伝えられない気持ち、家族のピリーフを理解して関わる支援を期待していた。医師には気軽に相談しにくい内容の相談や、子育て支援を望んでおり、家族の相談相手になる支援を期待していた。看護師は、経験的かつ暗黙のうちに家族支援を行っている場合が多いが、これらを意図的に実践することが重要であることが明らかになった。

#### (2) ひとり親家族に関する国内文献レビュー：2007-2014年の論文を対象とした検討

医中誌 Web を利用して、2007年から2014年の原著論文を検索した結果、ひとり親家族に関する文献(家族構成がひとり親家族であり、ひとり親家族であることと家族支援のあり方に関連がある事例やひとり親家族の実態や課題、家族支援のあり方を明らかにした研究、ひとり親家族とそれ以外の家族構成を比較し、ひとり親家族の特徴を明らかにした研究を選定した)は37本であった。ひとり親家族に関する文献数は増加していたが、医中誌 Web の収録文献数に占める割合は低いままであった。調査法は事例調査が多かったが、面接調査が増えていることや複数の調査法を組み合わせた混合型研究が存在することが分かった。筆頭著者は、教育・研究者が最も多かった。家族を地域、コミュニティーの数ある社会的組織の中の1つとして捉え、研究を行っている筆者が多く、家族看護学に立脚した研究が行われるようになってきたことが確認できた。今後は、研究結果を地域や医療機関等に還元するためのトランスレーショナル・リサーチが必要と考えられる。

#### (3) ひとり親家族用支援ニーズアセスメントツール(Support Need Assessment Tool for Single-parent Families: SNATS)の開発

183名の母親の有効回答を分析した結果、上位-下位分析では全項目において上位群と下位群の得点に有意差が認められた。SNATSと既存の家族機能尺度である Feetham 家族機能調査日本語版(FFFS-J)の Spearman の順位相関係数は-0.36、FFFS-Jの配偶者に関する項目を除いた場

合の Spearman の順位相関係数は-0.43 で併存妥当性が支持された。なお、SNATS は得点が高いほど家族機能が高いことを示すが、FFFS-J は得点が高いほど家族機能が低いことを示すため、逆相関（負の関係）を示したと考えられる。因子分析の結果、2 因子構造であることが確認できた。Cronbach の係数は 0.93 であり、内部整合信頼性は高かった。反復信頼性を検討するために、SNATS の 1 回目の回答から 1 週間以上の間隔をおいて再度、SNATS に回答してもらったところ、102 名の母親から有効回答が得られた（有効回答者の 102 名は全員が 1 回目の有効回答者 183 名の中に含まれており、同一人物である）。Spearman の順位相関係数は 0.79 であり、反復信頼性が確認できた。これらより、SNATS は、ひとり親家族の家族機能を評価する信頼性・妥当性を具備した尺度であると考えられる。

SNATS の特徴は、対象家族の家族機能の現状や家族が看護職に希望する家族支援が何であるか目で見て分かる点にある。すなわち、既存の家族機能尺度のように、家族機能充足度得点を算出するための計算などを必要としない。また、家族の希望を確認できるため、家族の希望に沿った家族支援を実施できる。なお、家族機能の充足度が低いが、家族が看護職の支援や相談を希望していない項目は、家族が踏み込まれたくない領域である可能性や看護職以外の人から支援を求めている可能性、看護職に遠慮したり、看護職には支援や相談を求められないと考えている可能性が考えられるため、直接的な介入はせずに経過観察したり、信頼関係を十分に構築してから介入する方がよいと判断できる内容である。加えて、既存の家族機能尺度は、ふたり親家族を基盤に作成しているため、ひとり親家族にも使用可能と記載していても、例えば、配偶者や結婚生活、性生活に関する項目など、ひとり親家族には回答しづらい項目が多く含まれていた。本尺度はひとり親家族を基盤に作成しており、ひとり親家族に適している。今後、ひとり親家族の家族支援の実施や研究に本尺度が寄与することを期待したい。

#### < 引用文献 >

法橋尚宏，堀口和子，樋上絵美：家族看護の場とパラダイム，法橋尚宏編集，新しい家族看護学 理論・実践・研究，57-60，メヂカルフレンド社，東京，2010

Hiratani, Y., Hohashi, N.: Family Functions of Child-rearing Single-parent Families in Japan: A Comparison Between Single-parent Families and Pair-matched Two-parent Families, Japanese Journal of Research in Family Nursing, 16(2), 56-70, 2010

平谷優子，法橋尚宏：離婚を経験した養育期のひとり親家族の家族機能と家族支援，家族看護学研究，15(2)，88-98，2009

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

平谷優子，ひとり親家族に関する国内文献レビュー：2007-2014 年の論文を対象とした検討，家族看護学研究，査読あり，25(1)，2019，印刷中

平谷優子，法橋尚宏，市来真登香，山本紗織，松岡杏奈，入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援，家族看護学研究，査読あり，24(1)，2018，pp.14-25

〔学会発表〕(計 3 件)

平谷優子，子育て中のひとり親が看護師に希望する家族支援，日本小児看護学会第 29 回学術集会，2019

Yuko Hiratani, Review of Nursing Researches on Japanese Single-parent Families in the Child Rearing Stage: 2007-2015, 21th EAFONS & 11th INC, 2018

平谷優子，市来真登香，山本紗織，松岡杏奈，法橋尚宏，入院中の病児をもつ家族が看護師に期待する家族支援と実現可能な家族支援，日本家族看護学会第 23 回学術集会，2016

#### 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：堀口 和子

ローマ字氏名：(HORIGUCHI, Kazuko)

所属研究機関名：兵庫医療大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号 (8 桁)：30379953

研究分担者氏名：小寺 さやか

ローマ字氏名：(KOTERA, Sayaka)

所属研究機関名：神戸大学

部局名：大学院保健学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁): 30509617

研究分担者氏名：法橋 尚宏

ローマ字氏名：(HOHASHI, Naohiro)

所属研究機関名：神戸大学

部局名：大学院保健学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁): 60251229

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。